

「持続可能性の先に灯す希望」と位置付ける4つのテーマ

人口減少、少子・超高齢社会が現実のものとなる中、本市においても、30年後、50年後の将来を見据え、活力を失わず、市民が生き生きと暮らせるまちの実現を目指し、「多核連携型コンパクト・エコシティの推進」、「コミュニティの再生」、「創造都市の推進」及び「地域包括ケアの実現」に重点的に取り組むこととし、将来のビジョン、在り方をしっかりと見据えながら、着実に推進していきます。

テーマ1 多核連携型コンパクト・エコシティの推進

人口減少の社会にあっても、持続可能なまちとなるよう、これまでの拡大基調を転換し、地域の特性を生かしながら、ソフト戦略を重視した集約型のまちづくりに取り組みます。

集約拠点

広域交流拠点

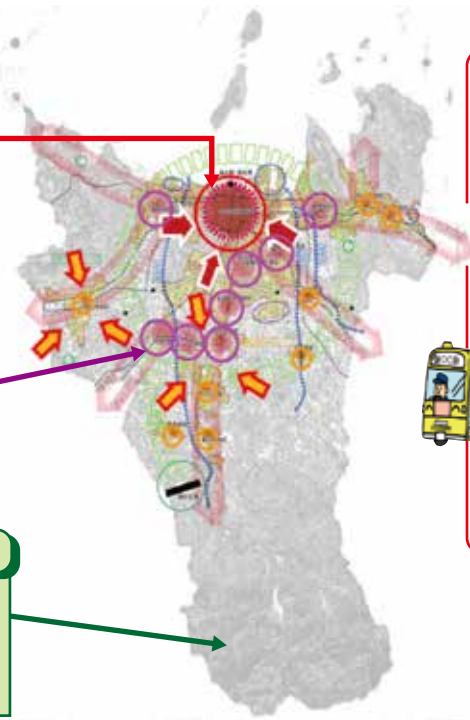
都市機能が集積し、魅力的な居住環境があり、公共交通や徒歩で生活ができるまち

地域・生活交流拠点

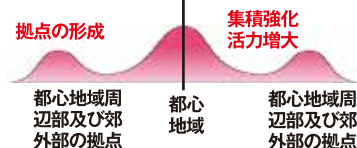
日常生活機能が集積し、魅力的な居住環境があり、公共交通を生かした生活ができるまち

拠点外（用途白地地域等）

豊かな自然に囲まれ、公共交通を活用しながら、地域の豊かさを感じられるまち



コンパクトなまち（目指す将来）



環境にもやさしい公共交通中心の交通体系
高齢者も元気に町に出て健康的に活動する



人がたくさん歩き、活気あふれる商店街



たくさんの人が住み続けたい、続けられる

人が住む、企業が来る（流出しない）

税収安定による市民サービスの維持・向上

持続可能なまち

テーマ2 コミュニティの再生

人の絆、地域の絆が薄れつつある昨今、地域の人々が知恵を出し合い、力を合わせて、自分たちで地域の課題を解決する市民主体のまちづくりを推進するため、コミュニティの再生に取り組みます。

目指すべき理想像

～地域の特性を生かし、多様な主体が参画・協働するまちづくり～

■ 地域コミュニティの必要性

